

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3577400066		
法人名	社会福祉法人 鹿野福祉会		
事業所名	グループホームせせらぎ		
所在地	山口県周南市大字鹿野上2755-1		
自己評価作成日	平成30年11月27日	評価結果市町受理日	令和 1年 6月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎食手作りの美味しい食事と笑い声の絶えない生活が自慢です。利用者様が安定しておられる事が特徴で、皆様に生活の中で役割を持ち、なじんだ言葉で笑い合う事で、共に生き、共に楽しむ環境作りをしています。また、もしグループホームでの生活が難しくなっても法人の母体である特別養護老人ホームやまなみ荘へ生活の場を移すことで、末永くご利用いただけます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握のためにセンター方式の全シートを活用されている他、日々の関わりの中での利用者の言動や表情、状況から「したいことやできること」は何かを把握され、理念にある「今持っておられる力」を安全に発揮できるように、常に寄り添って支援をしておられます。日々の支援では人格を尊重した言葉づかいであるように、「言葉の改善策8項目」をいつも職員の目につく場所に掲示されています。職員は丁寧過ぎず、親しみを込めた言葉を使い、利用者の気持ちやひらめきを引き出せるような会話をされています。食事は三食とも事業所で献立を立てられ、事業所の畑で採れた野菜や地域から差し入れの野菜を使って、季節感を大切にされ、食べやすいように好みや形態の工夫をして提供しておられます。利用者は野菜の下ごしらえや山菜取り、味見、下膳などできることを職員と一緒にされることが張り合いや喜びとなっています。利用者職員は同じテーブルを囲んで同じものを食べながら、会話を弾ませて、楽しい食事風景となっています。おやつづくりや戸外での食事、嗜好品(ノンアルコール)を楽しまれるなど、食事が楽しみなものになるような支援をしておられます。自然豊かな環境の中で、何気ない日常のほっとする安らぎのある暮らしを大切に支援をしておられます。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成30年12月20日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 24. 25. 26)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目: 10. 11. 20)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 19. 39)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2. 21)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 5)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目: 38. 39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、活き活きと働いている (参考項目: 12. 13)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 50)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目: 31. 32)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目: 29)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「今持っておられる力で、地域住民の一員として暮らしてゆけるようお手伝い致します。」の理念を会議の際唱和し共有している。	地域密着型サービスとしての事業所独自の理念をつくり、法人の理念と併せて、事業所内に掲示している。月1回の職員会議時に唱和し、日々のケアを実践する中で、常に「利用者の持っておられる力を安全に発揮できているか」を話し合っ確認し、理念を共有して実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の事業や地域からの訪問などを通して交流している。 法人として地域と共催の盆踊りを毎年行い利用者も参加している。	地域で年2回開催している市場に出かけたり、「別荘の日」を設けて地域の長野山にある「天空カフェ」に出かけている。地域と法人の共催で実施している盆踊り大会には地域から多くの参加者があり、利用者も盆踊りの輪に入って楽しく交流している。地域の児童遊園の園児が年1回来訪し、歌や踊り、ゲーム、おしゃべりをして交流している。法人全体での敬老会にはボランティアとして、踊りの団体の来訪がある他、年2回(盆、年末)、散髪ボランティアの来訪があり交流している。地域にあるスーパーマーケットでの買物時や散歩時には地域の人と挨拶を交わし、花や柿、野菜の差し入れがあるなど、地域の人と日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入所者には鹿野出身の方も多くおられ、法人としては介護職員初任者研修を通して、地域の認知症介護向上を目指している。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。		管理者は評価の意義について職員に説明をし、項目に職員全員から聞き取りをした後、一人でまとめている。職員は評価を日々のケアの振り返りと捉えている。前回の外部評価を受けて目標達成計画を立て、全職員による自己評価の取り組みや研修の充実など、具体的な改善に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回せせらぎ新聞を用いて説明し、会議で出た意見は職員と共有している。	会議は2ヶ月に1回開催し、利用者の状況や活動報告、行事予定、事故・ヒヤリハット報告、外部評価報告の後、話し合いをしている。会議に使用する資料は、パソコンを駆使して事業所運営への関心を引くような工夫をしている。同業者でもあり学識経験者からの意見で暴漢等不法侵入者対策の在り方についての意見があり、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要時に、電話や訪問し相談できる関係性が築かれている。	市担当者とは運営推進会議時の他、電話や直接出向くなどして、情報交換や相談して助言を得ているなど、協力関係を築くように取り組んでいる。地域包括支援センターは法人内にあり、職員とは常に連携を図っている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	平成26年の「身体拘束廃止の宣言」を施設長が出す以前より、拘束の実施なし。	職員は年4回ある法人の権利擁護委員会での報告や身体拘束に関する外部研修受講者の伝達、「身体拘束廃止の指針」並びにマニュアルをもとにした内部研修で学び、身体拘束の内容や弊害について正しく理解している。玄関には施錠をしないで、事故防止に配慮した気づく観察技術を学び、外出したい利用者とは一緒に出かけているなど、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。スピーチロックについては、「言葉づかいの改善策」8項目を学習して職員間で互いに注意し合っている。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者に社会福祉士をおき法人の権利擁護委員会にも職員を参加させている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	求めのあった際に社会福祉会などに相談し、情報の取得や提供を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	必ず管理者が面接の上で十分な時間をかけて行う。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談、苦情ともに窓口が明確に示されている。 また内容についても適切に処理し、対応するための委員会が設けられている。	相談、苦情の受付体制や第三者委員、外部機関窓口を明示し、処理手続きを定めて、契約時に家族に説明をしている。面会時や運営推進会議参加時、年2回の家族懇談会時、電話等で家族の意見や要望を聞いている。意見や要望は引き継ぎノートに記録して職員間で共有している。毎月、介護相談員の来訪があり、利用者の要望を聞いている。管理者は毎回、介護相談員から報告を受けている。苦情があれば法人の「苦情処置委員会」に報告するシステムになっているが、苦情は上がっていない。個別ケアに関する相談や要望にはその都度対応し、介護計画に反映している。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎年自己申告書で意見を募っている。 また、管理者、課長、施設長共に必要な相談、意見は常時受け付けている。	管理者は月1回の職員会議やカンファレンス時、申し送り時、委員会活動(権利擁護、認知症ケアチーム、事故対応)、係り業務を通して職員の意見や提案を聞いている他、必要に応じて面談を実施している。職員からは勤務調整や布団乾燥機の購入、外出や受診のための事業所専用公用車の購入についての要望があり、公用車購入の許可ができるなど、それらを運営に反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	実施が行われている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得の支援や祝い金、手当などを通して職員の意欲向上に努め、コーチング研修や中堅職員研修など研修を毎年行っている。	外部研修は、職員に情報を提供し、本人の希望や段階に応じて、勤務の一環として参加の機会を提供している。受講後は「復命書」を提出して回覧し、資料はいつでも閲覧できるようにして職員全員で共有している。法人研修は2ヶ月に1回あり、看護師を講師に感染症や褥瘡について、各委員会報告等をしている。内部研修は年間計画を立て、管理者と職員が講師となって、年5回、身体拘束廃止や認知症ケア、吐しゃ物の処理、ゴミの正しい出し方、介護記録等を実施している。新人研修は1ヶ月の法人研修終了後、日々の業務の中で管理者や先輩職員から介護の知識や技術を働きながら学べるように支援している。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	山口県宅老所・グループホーム協会へ加入しており交流に役立っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	実施できている。 初期の面接から2～3ヶ月の間、重点的に関わりを持つことで、不安の解消を図る。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	必要に応じ、面接や電話で相談を受け付けており、利用者の家族のほとんどは管理者直通の電話番号を知っている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面接より意見、希望を聞き、プランに取り入れるが、他のサービスの同時利用の希望は現在ない。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に生き、共に楽しむ生活を目標に、環境づくりをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	懇談会や面会時、ゆっくり話せる環境づくりを行い、共に本人を支える関係づくりをしている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	努めている。地域行事などでは馴染みの人から近づき、声をかけてくださる。	家族の面会や親戚の人、友人、近所の人の来訪がある他、電話や手紙での交流を支援している。馴染みのスーパーマーケットに買物に出かけたり、一時帰宅、馴染みの神社詣り、カラオケに出かける支援をしている。家族の協力を得て馴染みの美容院の利用や商店での買物、墓参、外出、外食、一時帰宅、外泊等、馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援に努めている。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	難しいながら、関係の維持の為、必要に応じて介入する。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	行っている。「今まで何をして来られたか？」の情報は、職員間で共有され、希望があれば他のサービス利用の相談なども受け付け適切な機関へ相談することができるよう支援する。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	基本的に本人の望まない事は行わない。また、その時の本人の希望に合わせて、サービスを提供できる体制が整っている。	入居時にはセンター方式のシートを活用してアセスメントを行い、基本情報や暮らしの情報を本人や家族から聞く中で思いの把握に努めている。日々の関わりの中での利用者の言動や表情、状況をケース記録に記録して、思いや意向の把握に努めている。利用者を担当している職員が1ヶ月毎にまとめて個別援助計画表に記録して、利用者のできることやしたいこと、思いの把握に努めている。困難な場合は家族や関係者から聞き取り、職員間で話し合い本人本位に検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	行っている。記録も全員で共有する。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	プランごと、最低でも年1回アセスメントを行っている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスや毎日の業務の中での情報などを盛り込み、プランを作成する。	利用者、家族の思いや意向、かかりつけ医、看護師等、関係者の意見を参考にして、利用者を担当している職員が作成した原案を月1回のカンファレンスで話し合い、職員間で検討して介護計画を作成している。毎月モニタリングを行い、6ヶ月毎見直している。利用者の状態や要望に変化があればその都度見直し、現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	24時間の記録を通し、本人の特性や性格を知った上で行っている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	行える体制が整っている。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行っている。本人が地域から切り離されないよう、里帰り外出などを回数は少ないが実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	行っている。 おのクリニック、岩本医院と連絡している。	本人、家族の納得を得て、協力医療機関をかかりつけ医とし、月1回の往診がある。専門医や他科受診は家族の協力を得て支援している。受診結果は病院受診票や受診ノートに記録して職員間で共有し、家族には電話で報告している。事業所の看護師が利用者の健康管理を行い、休日、夜間、緊急時にはオンコール体制で協力医療機関と連携して、適切な医療を受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	行っている。正看護師を1名非常勤で配置し、支援の要としている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	行っている。ほとんどの利用者は希望により、ホームへ戻ることを希望し、2週間程度で退院される。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	指針を定め、同意のもと、取り組んでいる。	契約時に家族に「重度化対応の指針」を渡し、事業所でできる対応について説明し同意を得ている。実際に重度化した場合は、早い段階から家族や主治医、事業所看護師、職員等関係者と話し合いを行い、方針を決めて共有して入院や他施設への移設も含めて利用者や家族の意向に添った支援に取り組んでいる。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	センサーや見回り、本人の生活時間の把握を通して、行っているが、初期対応についての訓練は実施できていない。	事例が生じた場合はヒヤリハット・事故報告書に、発生状況や対応、予防策を記録し、管理者のコメントを記録して職員全員に回覧して周知している。事故防止委員会からの事故リスク情報や共有シートを参考にして利用者一人ひとりの事故防止に努めている。職員は法人で実施の救急救命法とAEDの取り扱いの講習を受講し、事故防止マニュアルや事故防止フローチャートを作成している。内部研修で感染症や災害時の対応等、事故発生時に備えて学んでいるが、職員全員が実践力を身につけているとは言えない。	・全職員を対象にした応急手当や初期対応の定期的訓練の継続

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災協力員を法人が募り、登録することで、スムーズな連携がとれるようになっている。	消防署の協力を得て年2回、法人施設合同で、夜間の火災と風水害を想定した通報訓練、避難訓練、避難経路の確認、消火器の使い方等を、利用者や地域の防災協力員（登録者80人）も参加して実施している他、事業所独自に防火管理者を中心に、夜間の火災を想定した避難訓練を実施している。法人の地域交流スペースが地域の福祉避難所となっており、法人と地域との協力体制を築いている。災害時に備えて非常用食品は法人で備蓄している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	丁寧過ぎない言葉を心がけ、本人の人格を尊重すると共に、心理的な距離を不必要に作らないよう、心がけている。	管理者は職員会議や日常のケアの中で「親しみを込めた言葉づかい」と「丁寧すぎない言葉」に心がけることを伝えていると共に、「言葉の改善策」を事業所内に掲示して職員が常に言葉を意識するようにしている。職員は利用者一人ひとりを人生の先輩として尊敬の念を持ち、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応を心がけている。気になる対応があれば管理者が注意している。個人情報適切に管理し、守秘義務は徹底している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の側から意見や希望が言える関係づくりがなされており、職員も必要に応じて支援する。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者は一人一人、自分のペースで生活し、希望によって、生活の中身を選んでいく。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝、あるいは必要時に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食、役割を持った利用者が台拭きをしたり、手伝いをしてくださる。	三食とも事業所で献立を立て、食事づくりをしている。法人で栽培した野菜や事業所の畑で採れた野菜、地域からの差し入れの野菜等、新鮮な食材を利用して、季節感を大切に、食べやすいように好みや形態の工夫をして提供している。利用者はテーブルを拭く、野菜の下ごしらえ(皮剥き、筋取り)、味見、だしの袋詰め、下膳など、できることを職員と一緒にしている。利用者と職員は、同じテーブルを囲んで会話をしながら同じものを食べている。職員は献立日誌をつけて毎食の評価をしている。おやつづくり(ぜんざい、ホットケーキ)や戸外での食事(サンマ、焼き鳥)、デザート(付く誕生日食、嗜好品(ノンアルコール)を楽しむ、季節行事食(おせち、節句の寿司、山菜を取りに行っの一品、年越しそば)、家族の協力を得て外食など、食事が楽しみなものになるように支援している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	行っている。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	行っている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	可能な限りオムツは使用しない。筋力の低下した利用者であっても、立位を取ることで、訓練を行う機会として活用する。タイミングは声かけや希望時に適切に行うことを心がける。	排泄チェック表を活用して、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、習慣を活かして、羞恥心や不安に配慮した言葉かけや対応を行い、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	行っている。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	時間は決まっているが、その中での選択は尊重する。	入浴は毎日、10時20分から11時30分までと、14時から16時までの間可能で、利用者の希望や体調に合わせて週3回は入浴できるように支援している。順番や湯加減、好みのシャンプー、入浴剤の利用、歌を歌ったり、職員との会話を楽しむなど、本人の希望に添ってゆったりとくつろいだ入浴となるように支援している。入浴したくない人には無理強いしないで、時間の変更や職員の交代、言葉かけの工夫をして対応している。利用者の状態に合わせて清拭や足浴、シャワー浴など個々に応じた入浴の支援をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	行っている。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人、役割や得意なことを活かせるよう活躍の場がある。	テレビやDVDの視聴、週刊誌を読む、花の図鑑を見る、歌を歌う、ぬり絵に言葉を書き添える、日記をつける、写経、カラオケ、坊主めくり、ボール遊び、風船バレー、季節の壁画づくり(七夕、クリスマス)、ラジオ体操、テレビ体操、介護予防体操、脳トレ(計算ドリル、漢字、パズル)、おしゃべり、散歩、外出、買物、誕生日、掃除(掃く、拭く、玄関の掃除)、ゴミ出し、ゴミ袋に名前を書く、洗濯物を干す、洗濯物たたみ、カーテンの開閉、新聞を取りこむ、花を生ける、野菜の苗植え、野菜の収穫(なすび、キュウリ、オクラ、かぼちゃ、トマト)、雑巾縫い、繕いもの、季節行事(節分、雛祭り、夏祭り、天空のカフェ、敬老会、クリスマス)、ボランティアの来訪、山大メンネルOBミニコンサート、ハイキング、箒で床を掃く、新聞紙でゴミ袋づくり、洗濯物干し、洗濯物たたみ、洗濯物を居室に持ち帰る、食器洗い、テーブルを拭く、箸、おしぼりの配布、プランターの苗植え、花の水やり、草取りなど、利用者の喜びや張り合いとなる楽しみごと、気分転換、活躍できる場面を多くつくり支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブや里帰り外出などを行っている。	近隣の散歩やゴミ出し、買物、季節の花見(梅、桜、紫陽花、藤の花、つりがね草、エビネ、紅葉)、山菜取り、三社参り、天空のカフェ、里帰り外出でのドライブの他、家族の協力を得て、馴染みの美容院の利用や買物、外食、外出等、本人の希望に添って外出できるように支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買物は基本的に立て替えで行っている。所持しておられる方もありますが、ほとんど使う意志はなく、お守りのようにしておられる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	行っている。取り次ぎや代筆も希望があれば行っている。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	木を活かした建物になっており、一般的な住宅に近い環境づくりが成されている。	リビングダイニングは広く、大きな窓からの自然光で明るい。窓からは周辺の野山や近くの畑が見えて、季節の移り変わりを感じることができる。室内にはテーブルや椅子、ソファ、テレビがゆったりと配置しており、壁面には季節の壁面やカレンダー、クリスマスリースが飾ってある。キッチンからは調理の音や匂いがして生活感を感じることができる。温度や湿度、換気に配慮して居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事の時の他は、基本的にトラブルがなければ、居場所は自由に選べる。また、そこで寛げるように、職員も援助する。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	行っている。	整理ダンス、テレビ、時計、衣装箱、パイプスタンド、寝具、衣類、ハンガー、バック、整容道具、家族写真など、使い慣れたものや好みのもを持ち込み、活動写真や自作品、誕生日カードを飾って居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	なされている。		

2. 目標達成計画

事業所名 グループホームせせらぎ

作成日: 令和 元 年 6 月 16 日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	事故防止の取り組みや、事故発生時の備えについての実践力・対応力が不十分である	<ul style="list-style-type: none"> ・事故防止に向けた意識の向上 ・事故発生時の応急手当や初期対応の実践力を身につける 	<ul style="list-style-type: none"> ・事故発生後、速やかに話し合いの場を設け、改善策の実践とその後のモニタリングを行い、事故の再発防止に努めていく ・応急手当や初期対応の定期的訓練の実施 	12ヶ月
2	36	災害の少ない地域性により、防災意識が希薄である	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の安心安全な生活の提供に向け、職員全員の防災意識の維持・向上に努め、実践力を身につける 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所内独自の防災訓練を3ヶ月に1回程度定期的に実施する 	12ヶ月
3	14	内部研修を充実させて、職員の知識と意識の維持・向上を図っていく必要あり	<ul style="list-style-type: none"> ・対人援助職としての人権意識の向上や介護職員としてのスキルアップを図る 	<ul style="list-style-type: none"> ・外部研修、法人研修への参加の声かけ、促しに務めると同時に、内部研修として年間計画を立て、職員会議内で毎回実施していく 	12ヶ月
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。